



金子 剛一

中日本高速道路
前相談役



極寒のミネソタ州



アイスフィッシングで釣り上げた魚



友人の山小屋にて。右から4番目が私



わが家にて

アメリカでアラスカ州を除き一番寒い地域と言えばミネソタ州だ。

1977年2月1日、私は初めてミネソタ州セントポール市にあるスリーエム社の本社を訪れた。マイナス20～30度という厳寒の中での研修で、東京育ちの私には毎日が初めての経験の連続であった。通勤用のレンタカーを借りたが普通のタイヤなのにも驚いた。研修開始後3週間ほどたった時、友人から週末を山小屋で過ごさないかと招待された。もらった地図を頼りに一人で車を運転して行ったものの、周りは一面の

銀世界で道路標識はおろか道幅も定かではない。最後はどうとう立ち往生。しかもそこはホワイトベアーレイクの湖上であった。なんとか山小屋にたどり着き、翌日、仲間とアイスフィッシングをすることになった。湖上にドリルで穴を開け、糸を垂らして行う釣りである。今日では暖かい小屋の中で行う快適な釣りのようだが、当時はそのような施設もなく、まさに何も無い湖の上だ。初心者の私でもまずまずの数は釣れたが、寒

いには閉口した。ご覧の写真のように、釣り上げた魚は数秒でカチカチの冷凍魚になってしまった。

ミネソタ州への初出張から20年が経過した1997年1月に、ミネソタへの転勤命令が出た。着任したのが1月4日。そこは相変わらずの銀世界で、前年にマイナス51度という低温記録を更新していた。今回は数週間の研修ではなくここに生活するので、そのための必需品として極寒用コート、ブーツに大型の雪かき用シャベルなどを買い込み、新居に向かった。新しいがわが家は半年間ほど空き家状態であつたらしく、家の周りは固い雪で囲まれていた。家の中に入るにはガレージや玄関前の雪(実は氷結)を除雪しなければならず、マイナス40度での雪かきが着任後最初の仕事であった。

人は「住めば都」とはよく言ったものだ。このような厳しい環境下でも4回の冬を経験すると、楽しいことの思い出もたくさんある。次回、機会があれば楽しい冬の話をしたい。